

父親と同様に僧侶になるべく育てられ、

・ ・ ・ ・ ・ 1741＝9歳：
公事方御定書1742＝10歳：得度するが、

仏教の教えに疑問を抱いて、

・ ・ ・ ・ ・ 1749＝17歳：家を飛び出して還俗，無仏斎と号し，日野家の本姓藤原を名乗る。
・ ・ ・ ・ ・ 1750＝18歳：
徳川吉宗没・1751＝19歳：

この間，宗家の_日野資枝から和歌を，高橋宗直から故実儀式・包丁を，持明院宗時・高芙蓉・韓天寿から書・篆刻を，久米訂斎・後藤芝山・柴野栗山から儒学を，原田越斎から和学，辻豊前守から音楽を学ぶなど，じつに幅広い諸学に精通し，

山脇東洋解剖1754＝22歳：_古代の神器や鏡を安置した内侍所に出勤して古銭幣を知り，「銭幣私記」を著すなど，古来の由緒正しいものに触れて関心を抱くようになり，また，速水房常がまとめてまもない皇室の歴史書を読んだところに，

宝暦事件・・1758＝26歳：宝暦事件で逼塞していた日野資枝の実弟裏松固禪が，
大弐政治批判1759＝27歳：
大岡忠光没・1760＝28歳：

明和事件・・1767=35歳：*瓦について分析した我が国最古の「古瓦譜」を著す。のち、「好古日録」「好古小録」に、古い宮殿の遺蹟の屋根瓦とそれに書いてある文字を示し、'小さな破片の瓦ですら歴史を考える資料になるから、捨ててしまてはいけない'と書いており、今では常識になっている考古学の語も発案し、当時の学者は文献がすべてであって、物から歴史像を立ち上げたことから、まさにこの考古学者らの祖と言える。その文献についても、'古文書も日々失われていくならば、ただの切れ端ですら、大切にすべきである'と指摘している。

御蔭参流行・1771=39歳：裏松固禪が禁中研究に没頭しているさなかに、出会って意気投合、4つ上ながら、その家臣となって、

大原騒動・・・1773=41歳：_補佐を開始，

田沼意次失脚1786=54歳：

松平定信引退1793＝61歳：「現在、教科書に、それをもとにした模型の写真が必ず載っている「東三条殿之図」を作成して加え、写楽・・・1795＝63歳：真松固禪が「大内裏図考証」を献上。よく知られる、「好古小録」と、昌平饗始・・・1797＝65歳：「好古日録」4冊刊行。俄かに卒中し、巻ごとにテーマ別に作成した「集古図」22巻付録3巻を遺して、没した。松平定信が学者らを動員して、3年後に、その前編を刊行した「集古十種」の契機にもなったが、貞幹の「集古図」の方が断然優れていたのである。

号は無仏斎・蒙斎・瑞祥斎・好古など。出版刊行されたのはほんの一部で、没後翌年刊行された「逸号年号」はじめ、「公私古印譜」「百官」「伊勢両大神宮儀式帳考註」などのほか、知られるだけでも、著書は33冊あり、まさに、学問そのものが好きであった。「好古日録」「好古小録」を見るだけで、また正倉院の宝物が問題なく残っていることについて、校倉造が湿度を調節できたからだとして初めて明解に指摘したのをはじめ、「集古図」には、出土した縄文土器や埴輪の図を挙げ、原稿用紙を用いて文を書いているのも初めてらしいなど、初めてのものが実に多い。一方、水戸藩彰考館に招かれて「大日本史」編纂にも関与したとも言われ、偽書「南朝公卿補任」の作者とされている。

Wikipedia「[藤貞幹](#)」, YouTube帝塚山考古学研究所市民大学講座村野正景講演「この方、何者? 考古学者藤貞幹の学問」, 清野謙次「[日本人種論変遷史](#)」,